

平成15年度丸亀市内遺跡発掘調査概要報告書

丸亀市教育委員会
平成16年3月

はじめに

丸亀市内遺跡発掘調査は、国庫補助事業として文化庁および香川県の協力を得て市内に所在する埋蔵文化財の保存・保護を目的として、遺跡の所在や範囲・性格を認識し、丸亀市内の遺跡地図を完成させる事業です。

一方、本市は総合運動公園整備事業などの大規模な開発工事が着手・計画されておりますので、丸亀市教育委員会としても埋蔵文化財の保護を円滑に進めていく必要があり、遺跡を保護するための資料収集は責務といえます。

今後も市内にある埋蔵文化財の保護に努め、これらの遺跡を積極的に周知していき、郷土を愛する気持ちを育てる役割を果たす事業にしていきたい。

平成16年3月

丸亀市教育委員会

教育長 小佐古 公士

例　　言

1. 本書は国庫補助・県費補助を得て、丸亀市教育委員会が実施した平成15年度丸亀市内遺跡発掘調査概要報告書である。
2. 今回の調査は、丸亀市飯ノ町東二字山根の飯野山西麓で遺跡確認調査と詳細分布調査を行った。丸亀市田村町の田村池で遺跡確認調査を、丸亀市手島町1296-1 安養寺で遺跡確認調査、丸亀市郡家町1832番地で工事立会、丸亀市本島町福田で詳細分布調査を行った。
3. 発掘調査は丸亀市教育委員会文化課副主任東信男、大野宏和が担当し、北山多佳子、枝嶋佳奈が調査を補助した。
4. 挿図の一部に国土地理院地形図丸亀・善通寺(1/25,000)を使用した。また実測図の縮尺はすべてスケール表示した。
5. 遺構の実測は東信男、大野宏和、北山多佳子、枝嶋佳奈が行い、遺物は東信男が行った。図面の製図は北山多佳子、枝嶋佳奈が行い、編集を東信男、大野宏和、北山多佳子、枝嶋佳奈が行った。
6. 出土遺物と図面・写真は丸亀市金倉現場事務所で保管している。
7. 発掘調査は、尾崎和敏、窪田静夫、獅々堀隆司、高木裕子、高篠英治、高畠 裕、戸倉弘子、広瀬俊也、藤原當正、宮武セキ子、森崎義信、横山紀代子、淀川清眞 各氏の協力を得た。
8. 本書の執筆にあたっては、社会福祉法人厚人会 米本 仁・米本華代、岩崎清隆、遠藤 亮、大前観応、大前美恵子、合田重通、近藤幸子、中塚 寿、濱田秀徳、松本和彦、森 昌史、各氏の助言・協力を得た。記して謝意を表する。

目 次

調査の概要 ······	1
A 飯ノ山西麓遺跡 ······	1
B 田村池 ······	4
C 郡家町領家 ······	9
D 安養寺宝塔 ······	12
E 福田館跡 ······	14

図版目次

A 飯ノ山西麓遺跡	
第1図 調査位置図 ······	1
第2図 飯ノ山西麓遺跡発掘調査遺構平面図 ······	2
第3図 飯ノ山西麓3号墳石室 平面図・立面図 ······	3
第4図 飯ノ山西麓3号墳 土層断面図 ······	3
第5図 飯ノ山西麓3号墳 出土遺物実測図 ······	3
B 田村池	
第1図 調査位置図 ······	4
第2図 田村池トレンチ位置図 ······	5
第3図 田村池堤防土層図（北東部水門） ······	5
第4図 田村池北堤・東堤横断図 ······	6
第5図 田村池北堤土層図 ······	7
第6図 田村池東堤土層図 ······	8
C 郡家町領家	
第1図 調査位置図 ······	9
第2図 トレンチ位置図 ······	10
第3図 トレンチ平面図・土層図（第1トレンチ） ······	10
第4図 トレンチ平面図・土層図（第2～第6トレンチ） ······	11
D 安養寺宝塔	
第1図 調査位置図 ······	12
第2図 宝塔詳細位置図 ······	12
第3図 宝塔基礎平面図・土層図 ······	13
第4図 宝塔断面図 ······	13
E 福田館跡	
第1図 調査位置図 ······	14

写真図版目次

飯ノ山西麓遺跡	
1 飯ノ山遠景	1 6
2 飯ノ山西麓3号墳確認状況	1 6
3 飯ノ山西麓3号墳保存整備状況	1 6
田村池	
4 田村池遠景	1 7
5 重機掘削	1 7
6 E3トレンチ作業状況	1 7
7 N11トレンチ土層	1 8
8 N12トレンチ土層	1 8
9 E4トレンチ土層	1 8
郡家町領家	
10 郡家町領家工事立会状況	1 9
11 4トレンチ完掘	1 9
12 6トレンチ完掘	1 9
安養寺宝塔	
13 安養寺宝塔	2 0
14 宝塔土台検出	2 0
15 土台下部の遺構確認状況	2 0
16 トレンチ完掘	2 1
17 埋め戻し	2 1
福田館跡	
18 福田館跡石垣	2 1

調査の概要

A 飯ノ山西麓遺跡

- 所在地 丸亀市飯野町東二字山根 25番 5, 12
- 調査主体 丸亀市教育委員会
- 調査期間 平成 15年 4月 23, 24, 28, 30日
- 調査面積 約 600 m²
- 調査担当者 文化課 東 信男・大野宏和
北山多佳子・枝嶋佳奈
- 調査の原因 遺跡確認調査（工事立会）
- 調査結果の概要

飯ノ山西麓造成工事立会により古墳・堅穴住居跡を確認し本調査を実施した。調査の結果、古墳を1基、堅穴住居跡を1棟、溝跡や柱跡を検出した。

古墳は弥生時代の堅穴住居跡地に造られている。径は不明、玄室は両袖型の横穴式石室で、主軸はN-10°-Wの方位で、床面は長さ4.32m、幅1.72mあり、現存する羨道の長さは約2.8m、羨道の幅は0.8mある。墓壙の幅は6.7mで、天井石は消失しているが、奥壁及び側壁の一部、玄門立柱石が残っていた。石材は飯ノ山産の安山岩である。床面中央部はかく乱を受けていた。遺物出土量は少なく須恵器の杯身や杯蓋、平瓶や鉄器がある。6世紀末から7世紀前半の後期古墳である。

弥生時代の遺構は堅穴住居跡や溝跡を検出した。調査地は緩斜面部であり畑として使用され、また、後世のかく乱や土砂流失にあい残りは悪い。遺物は土器片や石器片がある。

8. 飯ノ山西麓3号墳石室保存処理

飯ノ山西麓3号墳は土地所有者の理解が得られ現地保存されることとなった。保存方法は石室部材の隙間から草木が生茂り毀損することのないようにすること、石が転落しないように花崗土とエボキシ系樹脂を混合した土を石材の目地に補強した。石室の床面は花崗土を敷き詰めて保護をし、その上から同様の樹脂を混ぜた土で固め補強した。奥壁は1.25mの大石を立てたもので倒壊することのないよう、背後のトレンチ調査をした箇所にコンクリートの重りにアンカーボルトで繋ぎ止め、倒れることのないよう措置した。

また、管理し易いように覆屋を設け保護し、説明看板を設置した。これらの予算は所有者である社会福祉法人厚仁会珠光園の予算で行われた。

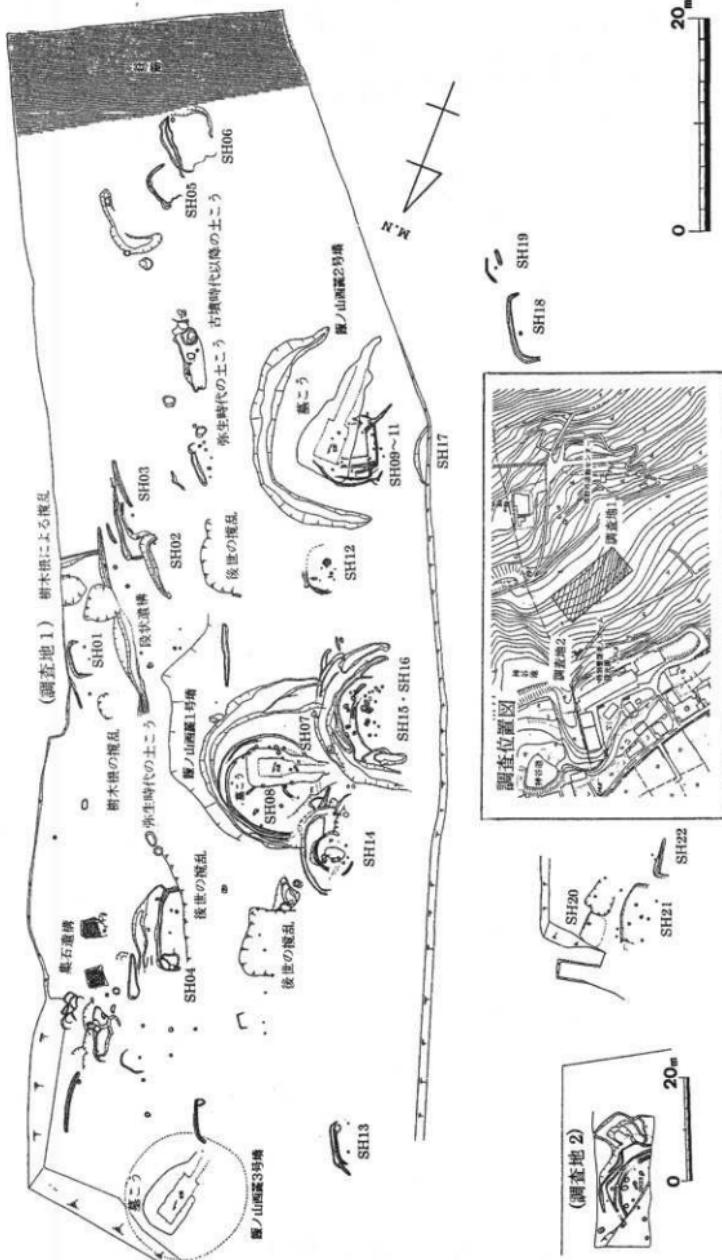
9.まとめ

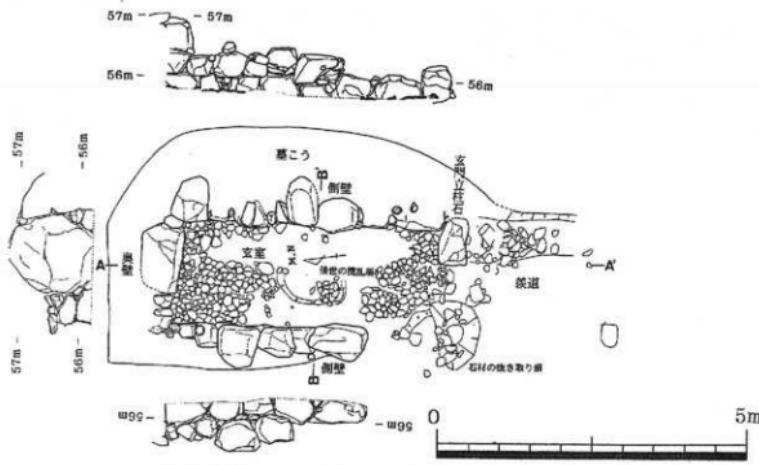
昨年度調査と同様に弥生時代後期の堅穴住居跡や古墳が見つかり、開発範囲全域が遺跡であった。飯ノ山西麓の標高50mあたりに古墳が3基ほど等間隔で並列しており、弥生時代の堅穴住居跡の残りは悪いが20棟ほど確認している。西麓一帯は弥生時代の集落跡や古墳が多数あると思われ今後も保護措置が必要となる。



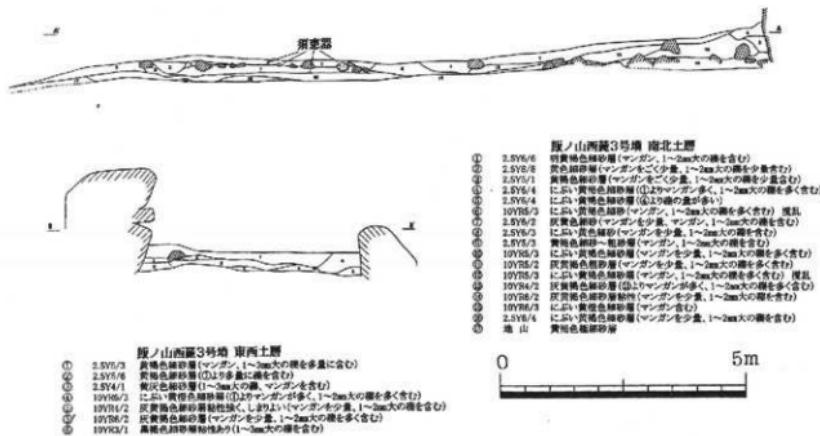
第1図 調査位置図

第2図 飯ノ山西麓遺跡発掘調査遺構平面図





第3図 飯ノ山西麓3号墳石室 平面図・立面図



第4図 飯ノ山西麓3号墳 土層断面図



第5図 飯ノ山西麓3号墳 出土遺物実測図

B 田村池（田村町）

1. 所在地 丸亀市田村町（田村池）
2. 調査主体 丸亀市教育委員会
3. 調査期間 平成 15 年 11 月 11, 13, 25, 26 日
4. 調査面積 約 46 m²
5. 調査担当者 文化課 東 信男・大野宏和
北山多佳子・枝嶋佳奈
6. 調査の原因 遺跡確認調査
7. 調査結果の概要
北堤及び東堤のトレンチ調査である。8箇所でトレンチ調査を行った。
- 北側のトレンチ番号は平成 13 年度調査から継続した番号を用いる。

N11 トレンチは標高 12.36m で水平堆積する固い粘質細砂層の基盤層を確認した。その上は堤の盛土及び池内の堆積層である。

N12 トレンチは旧流路を確認した標高 12.20m で黒色砂礫層の旧流路の底を確認した。その上層は流路の堆積層及び堤内の堆積層である。

N13 トレンチは N12 トレンチと同様に標高 12.20m で黒色砂礫層の旧流路の底を確認した。その上は堤の盛土及び池内の堆積層である。

N14 トレンチは標高 12.30m で砂礫層の基盤層を確認した。その上は堤の盛土及び池内の堆積層である。

E1 トレンチは標高 13~13.1m まで掘り下げた。基盤層は検出できず流路の堆積層のみの確認となった。

E2 トレンチは標高 12.9m まで掘り下げた。13.4m で基盤層を確認したが、トレンチ内で東側に肩落ちする旧流路や湿地となっていた層を確認した。他のトレンチと比べ、基盤層の標高が高い。

E3 トレンチは標高 13.4m まで掘り下げた。13.7m で基盤層を確認した。直上層は池の堆積層である。最も基盤層が高い位置にある。

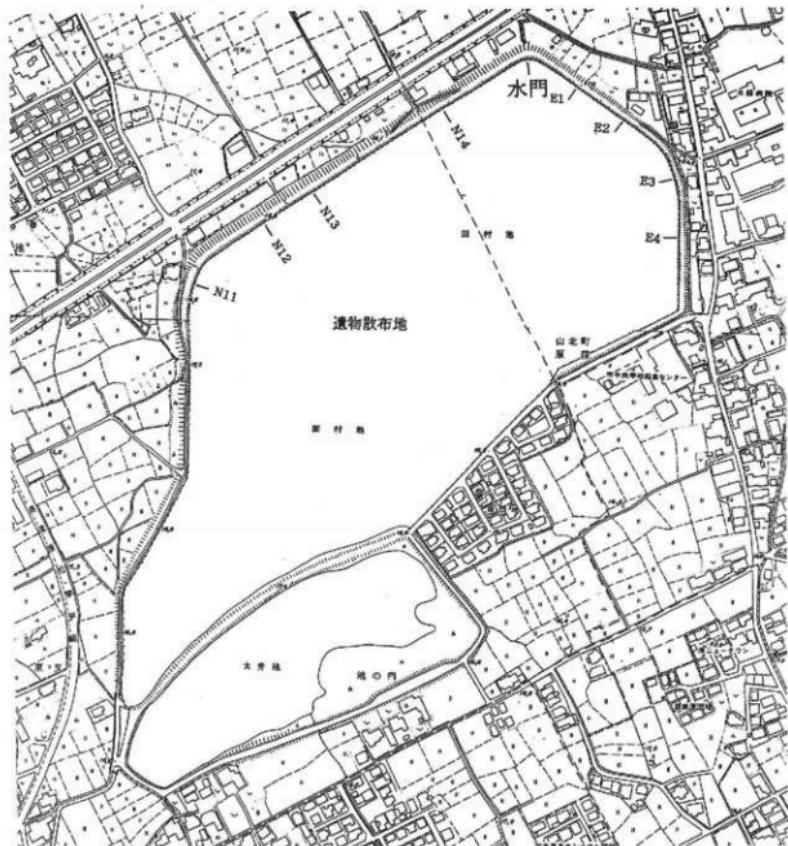
E4 トレンチは標高 13.5m が池底である。標高 12.9m まで掘り下げたが粘土層の堆積が厚く基盤層の確認はできていない。

8.まとめ

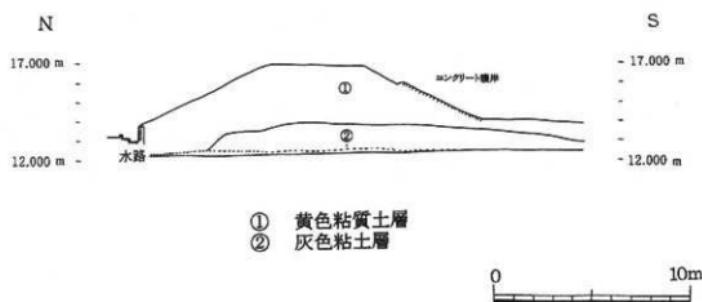
調査により北堤東側は低湿地及び流路跡であり遺構の検出はなかった。東側で基盤層を確認したが、すぐに旧流路及び、湿地帯となるようである。遺構のある場所は田村池内の微高地と南堤の範囲であると推定され、遺跡の範囲は丸亀市内遺跡地図の示す範囲で良いと思われる。



第 1 図 調査位置図

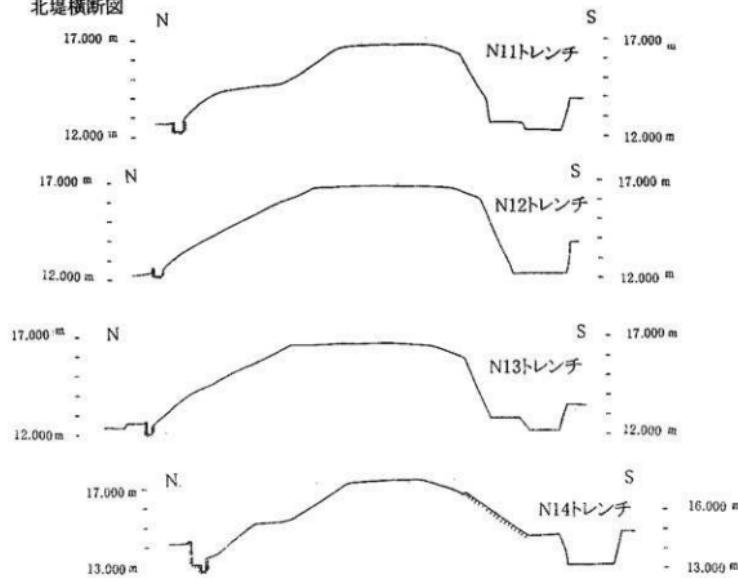


第2図 田村池トレンチ位置図(5000分1)

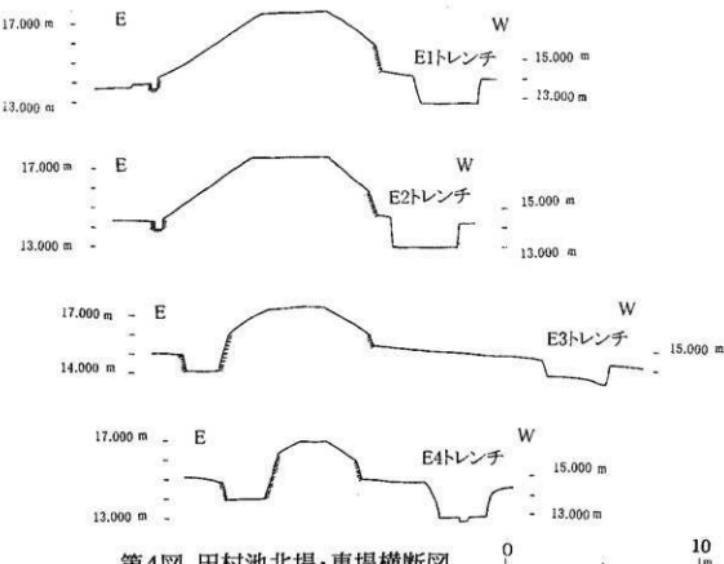


第3図 田村池堤防土層図(北東部水門)

北堤横断図

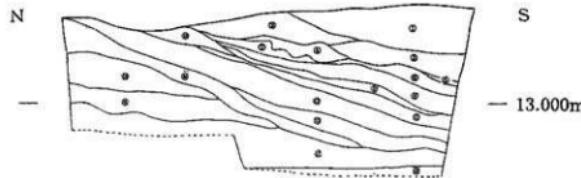


東堤横断図

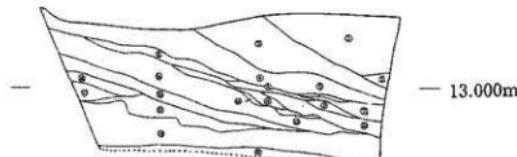


第4図 田村池北堤・東堤横断図



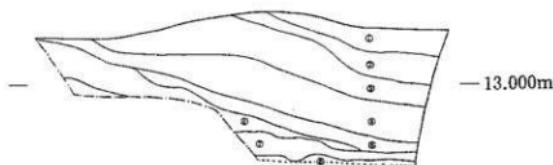


N I I ドレンチ



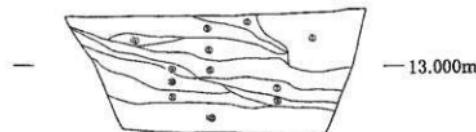
N 12 トレンチ

- | | | | |
|----------|------------------------------------|---------|---------------|
| 107975/6 | 青色地に白土刷毛 | EY5/1 | 赤黄色地に黒シルバーライン |
| 107976/3 | 青色地に白土刷毛 | EY6/1 | 赤黄色地に黒シルバーライン |
| 107976/7 | 青色地に白土刷毛 | 10795/2 | 赤黄色地に黒シルバーライン |
| ④ | | EY6/1 | 赤黄色地に黒シルバーライン |
| 107977/3 | ニホンヤマモウセンカク(10795/2 底部桜色を含む) | 10795/2 | 赤黄色地に黒シルバーライン |
| 107977/7 | ニホンヤマモウセンカク(10795/2 底部桜色を含む) 桜色を含む | EY6/1 | 赤黄色地に黒シルバーライン |
| 107980/1 | 楓葉模様の刷毛絞り(植物地含む) | EY6/1 | 赤黄色地に黒シルバーライン |
| 597/1 | 赤色地に刷毛 | EY6/1 | 赤黄色地に黒シルバーライン |
| EYT/2 | 赤色地に刷毛(10795/1 底部アルミント番をブロッサ状に含む) | EY6/1 | 赤黄色地に黒シルバーライン |
| 10795/1 | 赤色地に刷毛 | 10795/2 | 赤黄色地に黒シルバーライン |
| 10795/5 | 赤色地に刷毛 | EY6/1 | 赤黄色地に黒シルバーライン |
| 10795/7 | 赤色地に刷毛 | EY6/1 | 赤黄色地に黒シルバーライン |



N13 レンチ

- ① HYR7/3 に記す黄褐色粘土層(英褐色粘土を含む)
 ② LYR6/3 に記す黄褐色粘土層(英(或)灰岩以下)の範囲内)
 ③ LYR7/7 新褐色粘土層(さきいろ)
 ④ LYR7/2 に記す土層(10YR8/6 黄褐色土、部分合む)
 ⑤ LYR7/1 に記す土層(10YR8/6 黄褐色土、部分合む)
 ⑥ LYR7/1 に記す土層(10YR8/6 黄褐色土、部分合む)
 ⑦ LYR7/1 に記す土層(10YR8/6 黄褐色土、部分合む)
 ⑧ LYR7/1 黄褐色土層
 ⑨ LYR7/1 黄褐色土層(ペースト)
 ⑩ LYR7/1 黄褐色土層(ペースト)

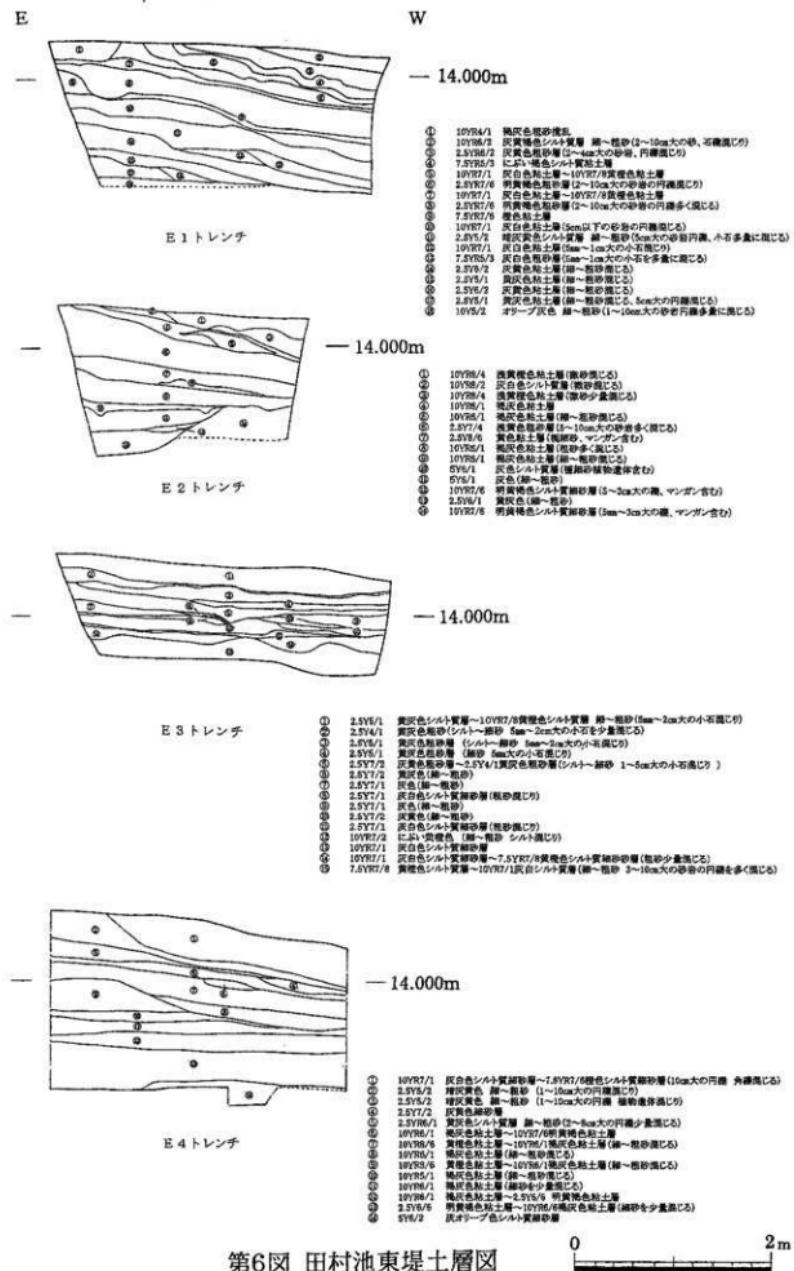


N-14-L-1525

- | | |
|---|--------------------------------------|
| ○ | ホツカヒ |
| △ | 19YR8/1 地色白艶黒帶暗暈(3YR8/1 接地色暗紺褐色) |
| △ | 19YR8/2 地色暗褐色(小葉面に) (2.5cm程度の川原石面じり) |
| △ | 7.5YR7/1 墓地暗赤色土層 |
| △ | 1.5YR8/1 墓地暗褐色層(2~5cm程度の川原石面じり) |
| △ | 7.5YR7/2 墓地暗赤色土層 |
| △ | 19YR7/1 地色灰 |
| △ | 19YR7/2 地色暗褐色層(柱状がはじけるマダラ含む) |
| △ | 7.5YR7/2 墓地暗赤色土層/シルト |
| ○ | 19YR7/3 灰白色土層 |
| ○ | 19YR8/1 地色灰暗褐色層(砂物含む) |

第5図 田村池北堤土屢圖





第6図 田村池東堤土層図

C 郡家町領家

1. 所在地 丸亀市郡家町 1832 番地
2. 調査主体 丸亀市教育委員会
3. 調査期間 平成 16 年 1 月 16 日
4. 調査面積 約 9.5 m²
5. 調査担当者 文化課 東 信男
北山多佳子

6. 調査の原因 工事立会
7. 調査結果の概要
一般住宅の浄化槽設置に伴う工事立会である。
1～6箇所のトレンチで確認した。

1 トレンチ～6 トレンチの概要を示す。

1 トレンチは現況地面（造成土）から約 1.2

m 下で黄褐色細砂層の地山を確認した。旧地面（耕作土）より約 36cm 下のところで、地山を掘り込む土こうを確認したが、遺物の出土は無く詳細不明のものである。

2 トレンチは調査地内の一一番北側に位置する。旧地面（耕作土）から約 45cm 下より北側に傾斜する地山の落ち込みを確認した。流路跡の砂層堆積であるが、遺物出土がなく存続時期や埋没時期は不明である。

3 トレンチは旧地面（耕作土）から約 46cm 下で黄褐色細砂層の地山を確認した。これより上層の包含層はラミナを挟むことから水田耕作がなされていた土層であると思われる。

4 トレンチは一番南側の調査であり、旧地面（耕作土）から約 30cm 下で黄色粘質土の地山を確認した。この地山を掘り込むかたちで深さ約 6 cm の暗灰色粘質土層の土こうを検出した。この土こうから 17 世紀末頃の擂鉢の破片が出土している。

5 トレンチは一番東側の調査であり、旧地面（耕作土）から約 15cm 下で黄色粘質土の地山を検出した。地山の検出は他の調査地より高く、東へ行くほど安定した土地と考えられるが遺構等は耕作土により削平されており検出はなかった。

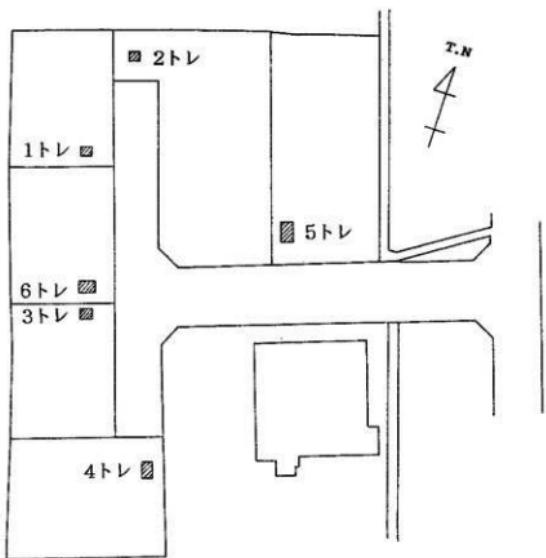
6 トレンチは旧地面（耕作土）から約 42～54cm 下のところで、地山は礫層と黄褐色粘質土がある。包含層の土層は、3 トレンチ同様水田耕作がなされていたものと考えられる。

8.まとめ

調査地では南側の 4 トレンチで中世末から近世初頭の遺物を包含する土壤を検出したが、他のトレンチからは遺物の出土はなく、明確な建物や郡衙跡に関連する遺構の検出はなかった。



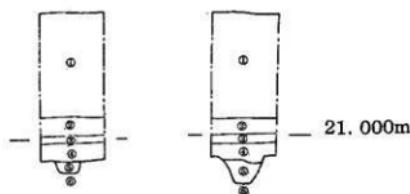
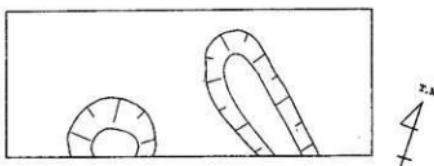
第 1 図 調査位置図



第2図 トレンチ位置図

0 10 20m

第1トレンチ

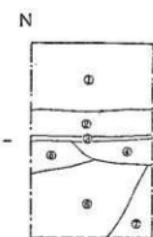


- ① 花崗土
- ② 耕作土
- ③ 腐土
- ④ 灰褐色細砂層
- ⑤ 暗灰褐色細砂層
- ⑥ 黄色粘質土 (ベース)

第3図 トレンチ平面図・土層図(第1トレンチ)

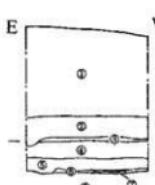
0 1 2 m

第2トレンチ



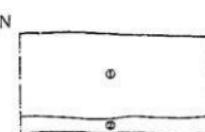
- ① 花崗土
- ② 耕作土
- ③ 廃土
- ④ 黒褐色粘質土 (包含層)
- ⑤ 灰黃色細砂層
- ⑥ 灰褐色粘質細砂層 (流路)
- ⑦ 黃色粘質細砂層 (ベース)

第3トレンチ



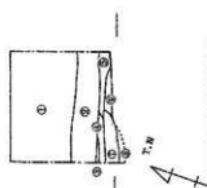
- ① 花崗土
- ② 耕作土
- ③ 廃土
- ④ 黄灰色粘質シルト層 (耕作土)
- ⑤ 單灰褐色粘質細砂層 (耕作土)
- ⑥ 灰褐色極細砂層
- ⑦ 灰白細砂層
- ⑧ 10YR7/8 黄褐色細砂層 (ベース)

第5トレンチ

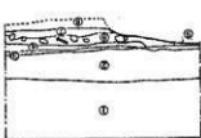


- ① 花崗土
- ② 耕作土
- ③ 灰白シルト層
- ④ 黄色粘質土 (ベース)

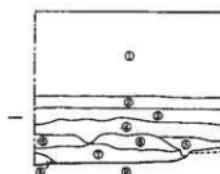
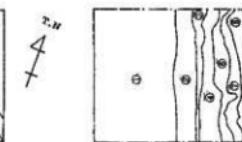
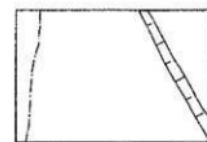
第4トレンチ



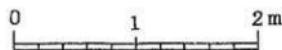
- ① 花崗土
- ② 耕作土
- ③ 廃土
- ④ 單灰色粘質細砂層 マンガン含む
- ⑤ 單灰褐色粘質細砂層
- ⑥ 單灰色粘質細砂層
- ⑦ 灰黃色細砂層
- ⑧ 灰黃色粘質細砂層 粒径が7層より大きい
- ⑨ 黃色粘質土 (ベース)



第6トレンチ



- ① 花崗土
- ② 耕作土
- ③ 黄褐色粘質土
- ④ 單灰色シルト層
- ⑤ 灰白色細砂層
- ⑥ 單灰色シルト層
- ⑦ 單灰褐色シルト層
- ⑧ 黑褐色粘質土 硫化物含む (ベース)
- ⑨ 黑褐色粘質土 (ベース)



第4図 トレンチ平面図・土層図(第2~6トレンチ)

D 安養寺宝塔

1. 所在地 丸亀市手島町 1296-1
2. 調査主体 丸亀市教育委員会
3. 調査期間 平成 16 年 2 月 6, 26 日
4. 調査面積 2.8 m²
5. 調査担当者 文化課 東 信男・大野宏和
枝嶋佳奈
6. 調査の原因 遺跡確認調査
7. 調査結果の概要

市指定文化財安養寺の宝塔は鎌倉時代中期に建立された凝灰角礫岩製の宝塔である。

基礎部の破損、長年の風雨に伴う風化等により、この度保存修理を実施することになり、宝塔下部の埋蔵文化財発掘調査を実施することと

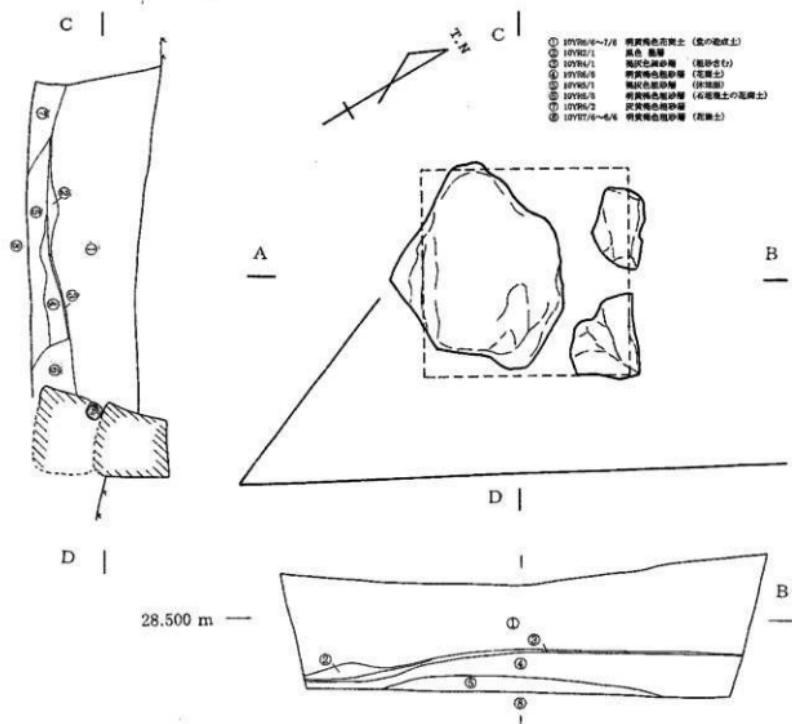
した。調査は、宝塔の略測を行い、取り除き後、基礎の台石を検出し測量した。発掘調査は台石下の遺構確認をトレンチによる調査で確認した。下部に遺構はなく、盛土からは瓦の細片や時期不明の土器の破片が出土した。この盛土は背後の地山を削ったときできた土を盛ったもので、前面の間知石の石積みを築いたときの盛土のようであることから、宝塔は創建当初からこの場所にあったものでなく移転され当地に安置されたものである。



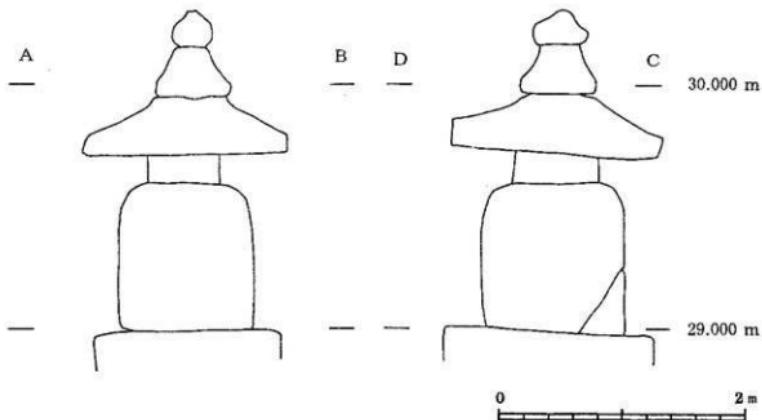
第1図 調査位置図



第2図 宝塔詳細位置図



第3図 宝塔基礎平面図・土層図



第4図 宝塔断面図

E 福田館跡

1. 所在地 丸亀市本島町福田福部
2. 調査主体 丸亀市教育委員会
3. 調査期間 平成 16 年 3 月 19 日
4. 調査面積 300 m²
5. 調査担当者 文化課 東 信男
枝嶋佳奈・高橋英治

6. 調査の原因 詳細分布調査

7. 調査結果の概要

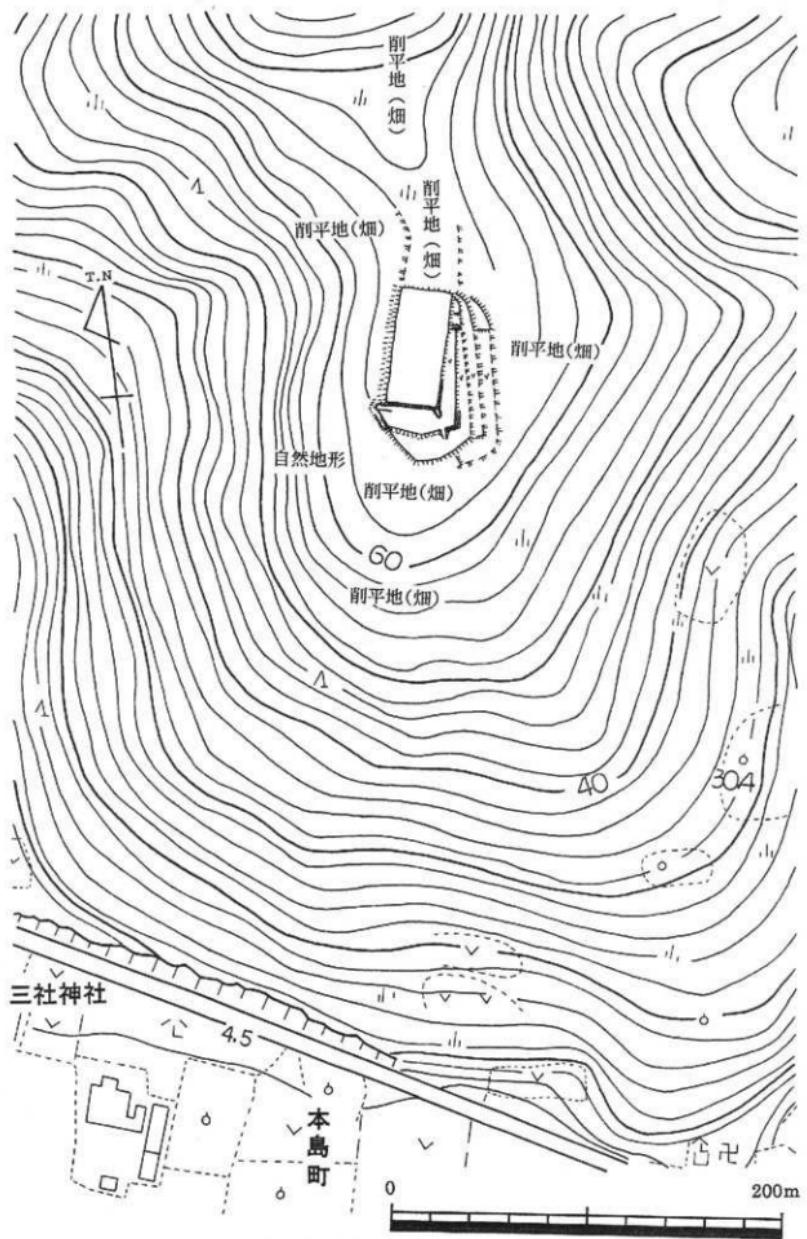
本島町福田の福部にある標高 67.5m の頂部に方形の削平地及び階段状に平場が見られる。畠地として利用された形跡があるが、2~2.5m の高さを持つ石垣がある。

石材も周辺の畠の石垣に用いられているものより大きく、積み方も古式である。背後の山の平場は自然地形及び畠の開墾によるものと今回の踏査で判断した。

当地には「アキ屋敷」の地名が残り館跡であった可能性が高い。島津家久の「家久君上京日記」の四月三日にある「…しづくの人体福田又次郎といえる、その館にて蹴鞠有…」とあり、福田又次郎の屋敷は笠島城跡と伝えられているが、福田の地にある当遺跡をあてることもでき、今後の検討に期待する。



第1図 調査位置図



第2図 福田館跡縄張図

飯ノ山西麓遺跡

1 飯ノ山遠景



2 飯ノ山西麓 3号墳確認状況



3 飯ノ山西麓 3号墳保存整備状況



田村池



4 田村池遠景



5 重機掘削



6 E 3 トレーニチ作業状況

田村池

7 N11トレンチ土層



8 N12トレンチ土層



9 E 4 トレンチ土層



郡家町領家

10 郡家町領家工事立会状況



11 4トレンチ完掘



12 6トレンチ完掘



安養寺宝塔



13 安養寺宝塔



14 宝塔土台検出



15 土台下部の遣溝確認状況

安養寺宝塔

16 トレンチ完掘



福田館跡

18 福田館跡石垣



報告書抄録

ふりがな	へいせいい15ねんどまるがめしないいせきはつくちょうさがいようほうこくしょ							
書名	平成15年度丸亀市内遺跡発掘調査概要報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	東信男							
編集機関	丸亀市教育委員会							
所在地	〒763-8501 香川県丸亀市大手町二丁目3番1号							
発行年月日	西暦2004年3月31日							
所収遺跡	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市	町村	遺跡番号	°'."°'."		m ²	
飯野山西麓遺跡	香川県 丸亀市 飯野町		37202		34° 15' 03"	133° 50' 28"	平成15 4.23・24 4.28・30	約600m ² 遺跡 確認調査 (工事立会)
田村池	香川県 丸亀市 田村町		37202		34° 15' 49"	133° 48' 17"	平成15 11.11・13 11.25・26	約16m ² 遺跡 確認調査
郡家町領家	香川県 丸亀市 郡家町		37202		34° 15' 12"	133° 49' 14"	平成16 1.16	約9.5m ² 工事立会
安養寺宝塔	香川県 丸亀市 手島町		37202		34° 23' 46"	133° 40' 11"	平成16 2.6・26	2.8m ² 遺跡 確認調査
福田館跡	香川県 丸亀市 本島町		37202		34° 23' 29"	133° 45' 28"	平成16 3.19	300m ² 詳細 分布調査
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
飯野山西麓遺跡	住居跡・古墳	弥生時代後期～ 古墳時代	円墳(横穴式石室) 竪穴式住居跡・溝跡・ 柱跡	須恵器・鉄器 弥生土器	石室現地保存			
田村池	池	不明		なし	低湿地・流路			
郡家町領家	なし	不明		中世末～近世初頭 のすり鉢	流路			
安養寺宝塔	石造物	鎌倉時代中期		凝灰角礫岩製の 宝塔	宝塔保存処理			
福田館跡	居館跡	中世末～近世初頭	削平地・石垣					

平成15年度
丸亀市内遺跡発掘調査概要報告書

平成16年 3月発行

編集 香川県丸亀市大手町二丁目三番一号
発行 丸亀市教育委員会

印刷 四国工業写真